

株
式
会
社
網
屋

自己株式を活用した成長資金調達に関する補足説明資料

(資本業務提携／自己株式取得／成長資金調達)

戦略的事業会社との資本業務提携と成長資金の調達について

- ・ 創業者株(約31%)を戦略的事業会社3社と自己株式に移転。OEMを含めた大型の事業シナジーを創出できる資本業務提携を締結。
- ・ 国内最大のセキュリティ総合事業者として中長期の成長確度を高める。
- ・ ゼロ金利の成長投資資金を既存株主に配慮した固定型の転換社債型新株予約権付社債（CB）と固定型の新株予約権で調達。
- ・ 割当予定先として、シンプレクス・キャピタル・インベストメント（シンプレクス）を戦略的投資提携相手に選定。

① 戦略的事業会社との事業シナジー

戦略的事業会社3社との資本業務提携 (約27.4%)

株主異動後の議決権比率	
キャノンマーケティングジャパン株式会社	約14.0%
サイバーソリューションズ株式会社	約10.2%
株式会社菱友システムズ	約3.2%

② 資本政策オプションの拡充

自己株式取得 (約3.6%)

自己株式活用 of 自由度を確保
(還元 + 交付原資の確保)

③ 成長投資資金の調達

無利息CB 15億円
+
新株予約権 約10億円
(総額 約25億円)

シンプレクス組成によるPIPEsファンド
既存株主に配慮した固定転換/固定行使価額型

注：サイバーソリューションズ株式会社の議決権比率約10.2%につきまして、サイバーソリューションズ株式会社社長の資産管理会社の議決権を含みます。

成長投資資金調達概要

- 成長投資資金総額 25億円を、CB（即時確定入金）と新株予約権（行使分の追加入金）で確保します。
- 株式交付は原則自己株式で充当し、発行済株式総数ベースで希薄化を要さない設計を行います。
- 転換・行使価額に下方修正なし、転換・行使制限（ロックアップ）期間を払込後1年間設定しています。

総額 25億円調達（見込）

固定転換価額型CB : 15 億円
 固定行使価額型新株予約権 : 約 10 億円

成長に向けた資金使途

既存事業投資 : 10 億円
 M&A・資本業務提携等 : 約 15 億円

既存株主に配慮した転換および行使の条件

原則自己株式充当・発行済株式総数の増加（希薄化）を抑制
 （不足時は自己株を追加取得/新株等の可能性）

価額下方修正条項なし

1年間転換・行使に制限(ロックアップ)期間を設けることで、
 短期的な需給悪化に配慮

転換価額・行使価額の公正性

資本業務提携、自己株式取得、決算等と同時発表のため、
 転換・行使価額を2段階方式で決定することで公正性を担保

発行決議日終値×110%と
条件決定日前日終値×90%の高い方を
 転換・行使価額として採用

資金使途（調達金額 約25億円）

既存事業への投資：10億円で主力プロダクト群への研究開発/販促投資等により、事業成長を加速します。

M&A/資本業務提携等：約15億円で総合サイバーセキュリティ領域の周辺分野を補完し、中長期的な成長基盤の強化を図ります。

具体的な使途	金額 (百万円)	詳細内容・方針
① 既存事業への投資	1,000	対象製品・サービス ALogシリーズ（ALog, ALog Cloud, ALog MDR） Network All Cloud（Verona/Hypersonix等） NATURE SERIES、セキュサポ
② M&A及び 資本業務提携に関わる費用	約 1,500	狙い ：既存領域と親和性の高い周辺領域を補完し、 共同提案・クロスセルを拡大 方針 ：株式取得・事業譲受に限らず、資本業務提携、 共同事業（JV）参画、マイノリティ出資等も選択肢
合計	約 2,500	使途に充当するまでの資金は銀行預金等で管理

注：使途に充当するまでの資金は銀行預金で管理し、重要な変更は適切に開示します。

注：②は候補先・個別投資金額・実施時期が未確定であり、案件進捗に応じて執行します（重要な変更は適切に開示）。

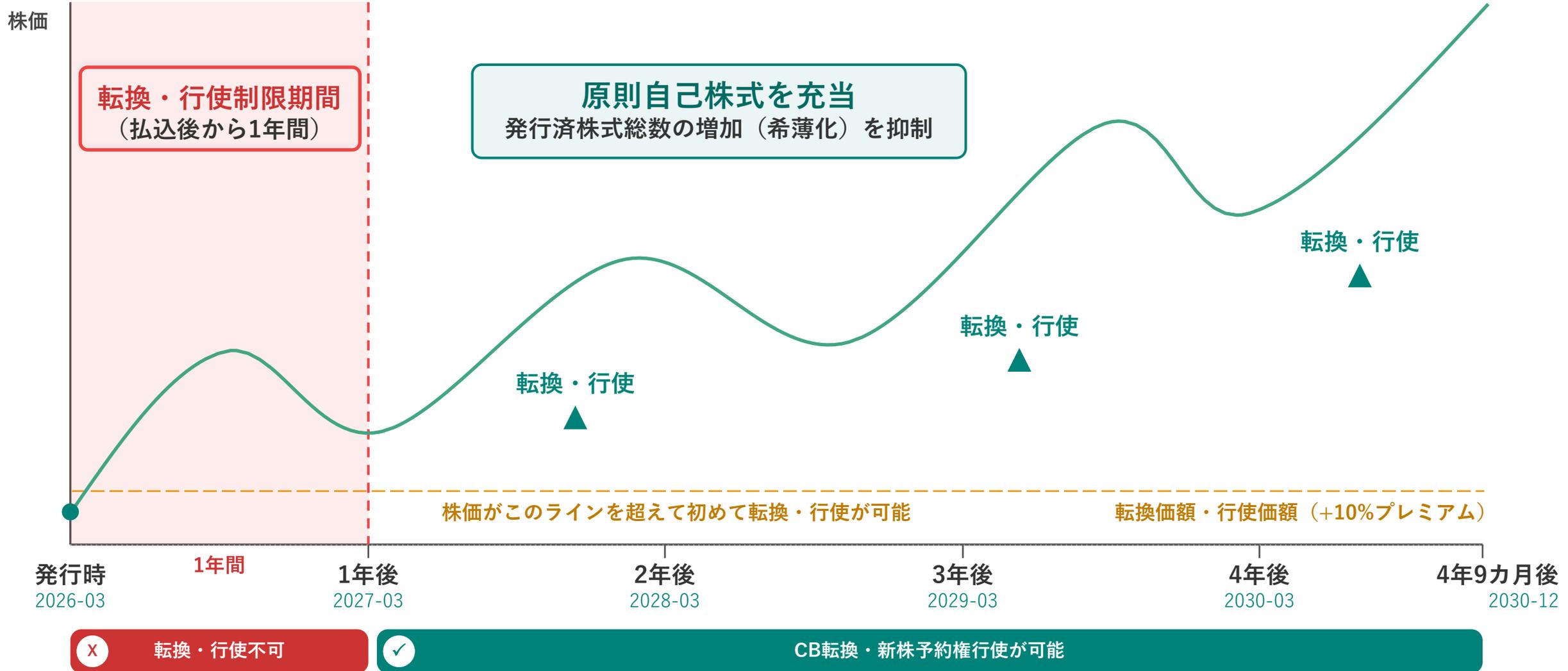
注：②は本日公表の戦略的事業会社3社との資本業務提携に充当する予定はありません。

CB・新株予約権の発行条件の概要

項目	第1回無担保転換社債型新株予約権付社債 (固定転換価額型)	第3回新株予約権 (固定行使価額型)
払込・割当	2026年03月13日	
調達枠（見込）	15 億円	約10 億円
利息	利率 0%（利息なし）	-
満期/期限	2030年12月30日	
価額の決定	転換・行使価額 = 発行決議日終値 × 110%、条件決定日前日終値 × 90%のどちらか高い株価を採用	
価額修正	価額修正なし	
株式交付方針	株式交付は原則自己株式	
割当予定先	シンプレクス・キャピタル・PIPEs投資事業有限責任組合 1 号	
転換/行使の制限	払込後から1年間	

注：シンプレクスはCBと新株予約権を中長期保有する方針です。また、当社普通株式の将来的な売却についても当社の事業成長や資本政策に資する戦略的な相手先及び機関投資家等への譲渡を基本としています。

CB・新株予約権の仕組み（イメージ）



注：本図は仕組みのイメージであり、株価推移等を約束するものではありません。

戦略的投資提携：シンプレクス・キャピタル・インベストメントによるエンゲージメント

資本市場や企業価値向上の支援等に精通したメンバーによる強力な支援体制
 エンゲージメントを通じた事業面・経営面の多角的な支援
 シンプレクス・ファイナンシャル・ホールディングス グループ内外の経営資源を最大活用

ファンド名称	シンプレクス・キャピタル・PIPEs投資事業有限責任組合1号
投資タイプ	グロース企業成長支援プライベート投資 エンゲージメント型
目的	グロース市場等に上場する中堅・中小企業に対し、その成長資金として資本性資金を提供し、エンゲージメントを通じて企業の成長を支援。 地域経済の活性化・産業雇用の底上げ支援も視野に、地域金融機関等のリスクマネー供給・ソリューション提供を促進。
支援内容	事業面での支援：事業開発と相乗効果がある業務提携先の紹介等 経営面での支援：IR（インベスター・リレーションズ）・資本政策等のアドバイス
無限責任組合	シンプレクス・キャピタル・インベストメント株式会社
有限責任組合	株式会社地域経済活性化支援機構、株式会社横浜銀行、株式会社静岡銀行、国内大手企業年金

よくあるご質問 (FAQ)

資金調達の基本	
Q1 今回の資金調達の位置づけは何ですか	成長投資の実行力を高め、財務基盤を強化するための資金調達です。希薄化と需給への影響を抑えつつ、確実な資金確保と追加調達を両立します。
Q2 調達枠はいくらですか。調達は確定していますか	約25億円です。うちCB 15億円は確定しています。残り約10億円は新株予約権の行使に応じて段階的に入金されます。
Q3 なぜ普通株式ではなく、本スキームを採用したのですか	普通株式の一括発行に伴う需給悪化と即時の希薄化を回避するためです。自己株式の活用により新株発行を抑え、中長期の協働関係を前提としています。
Q4 なぜ銀行借入ではなく、本スキームを採用したのですか	借入の増加や金利負担を抑えつつ、成長資金を確保するためです。無利息CBと新株予約権により、資金調達と自己資本拡充を両立します。
条件と制限	
Q5 転換価額・行使価額にプレミアムは設定されていますか	転換価額・行使価額は、発行決議日終値の110%を下限に設定しています。既存株主の利益に配慮した設計です。
Q6 転換価額・行使価額は下方に修正されますか	下方修正（リセット）条項はありません。転換価額・行使価額は、原則として固定です。
Q7 ロックアップ期間（1年間）の意味は何ですか	払込期日の翌営業日から1年間は、転換・行使が行われません。短期的な株式需給への影響を抑制することが目的です。
影響と理由	
Q8 CBが転換された場合、新たに現金は流入しますか	CB転換時に新たな現金の流入はありません。負債が自己資本に振り替わる形となります。
Q9 希薄化（既存株主の持分低下）は発生しますか	原則として自己株式で交付し、新株発行は抑制します。自己株式には議決権がないため、交付時に議決権ベースの希薄化が生じます。
Q10 割当予定先としてシンプレクスを選定した理由は何ですか	資金提供に加え、事業・IR・資本政策の知見も活用できるためです。中長期にわたる投資先支援の実績と体制を重視しました。

AMIYA

自動化で、誰もが安全を享受できる社会へ